

# アイ 岩手県 | 援隊だよ!

## 岩手県 (釜石) 派遣隊よ!

### (「アイ 援隊しずおか」よ!)

県民みんなで 力を合わせ 希望に向かって 一歩ずつ

# がんばろう! 岩手

平成 26 年度夏号

## ■ 沿岸広域振興局の派遣職員の紹介と担当業務

平成 26 年度の人事異動により、引き続き静岡県交通基盤部から岩手県へ 9 名、岩手県下閉伊郡山田町へ 3 名の計 12 名が 1 年間の任期で派遣されることとなりました。

岩手県へ派遣された 9 名の職員のうち 6 名が岩手県沿岸広域振興局土木部 (釜石市) に配属となり、復興まちづくり課に 5 名、昨年度に引き続き河川港湾課に 1 名配属となりました。

復興まちづくり課は、管轄する釜石市及び大槌町の河川・海岸施設の災害復旧工事等を担当します。静岡県の 5 名は、復興第 3 グループとして、釜石市の甲子川・鶴住居川・片岸海岸と大槌町の大槌川・小槌川を担当することとなりました。また、河川港湾課に配属された 1 名は、復興第 1 グループとして昨年度に続き釜石港を担当しております。

岩手県では、平成 26 年度から 28 年度の 3 年間で“本格復興期間”と位置付け、被災者一人ひとりが安心して生活を営むことができ、将来にわたって持続可能な地域社会の構築を目指して事業を進めています。本年度は、その 1 年目として、大規模な復旧工事が稼働し始める大事な年なので、早期の工事着手、完成に向けて派遣隊一丸となって取り組んでいきます。



上) 静岡県と岩手県の位置関係。約 750km も離れています。  
下) 静岡県派遣職員が担当する現場の位置。



上) 派遣職員へお礼と激励を述べる  
達増(たっそ)岩手県知事

上段左より、大石、河守、八木 (秀)、山村【建築】、杉山【建築】  
下段左より、諸橋、竹川、大橋、高島【農林】、杉浦【農林】(敬称略)



## ■ 釜石港と甲子川の復興状況

釜石港は岩手県の南東部に位置する天然の良港で、重要港湾に指定されるなど、海上輸送網の拠点となっています。先の地震に伴い広域的な地盤沈下が発生しましたが、公共埠頭を約1m嵩上げする復旧事業を展開しています。

今年度中の完成を目指し、輻輳する各種工事も終盤戦を迎えようとしています。円滑な事業進捗を図るため、各現場の施工状況を確認し、港湾利用者やインフラ管理者と頻繁に工程調整を行っています。

釜石港に注ぐ甲子川<sup>かつし</sup>の河口に津波対策水門の整備工事に着手しました。この甲子川水門は、釜石港の防潮堤と接続し、背後の住宅地を津波から守る一体的な防災施設です。不発弾探査や漁業関係者との調整も終了し、水門土木工事に先行して、左岸側の仮締切工事が進んでいます。この仮締切工事で使用する鋼矢板の量は、約1,700tと一般的な工事規模の使用量を大幅に上回っています。仮設矢板の施工はこれから秋まで続き、その後、締切内の水を抜いてから水門本体基礎部の掘削に入っていく予定です。



上段 釜石港と甲子川（赤字が水門仮締切工事の箇所）  
下段 搬入された鋼矢板の確認を行う諸橋主査

## ■ 鵜住居川と片岸海岸の復興状況

鵜住居川<sup>うのすまい</sup>は、釜石市北部を東西に流れる幅約180mの川で、河口付近には白砂青松の美しい海岸線をもつ片岸海岸<sup>かたぎし</sup>がありました。しかし、震災により海岸の砂はほとんど失われ、海岸にあった防潮堤も広範囲にわたって破壊されてしまいました。また、津波は鵜住居川を溯上し、上流の集落にまで達しています（『釜石の奇跡』が起きた地区とえば分かる方も多いと思います）。このため、鵜住居川河口に水門を建設し、あわせて片岸海岸へ約800mの防潮堤を建設する予定です。

鵜住居川水門は昨年度から川を締切る仮設工事に着手して、今年度から本体工事に着手しました。片岸海岸の防潮堤も水門の工事と歩調を合わせ、今年度から本格的な工事に着手する予定です。

しかし、未取得用地の問題や、接続される水路の取り扱い、漁協との調整など、工事を円滑に進めるために解決しなければならない課題が山ほど残っています。これらの課題に頭を悩まされていますが、平成29年度末までに津波防災効果が発揮できるよう、尽力を注いでいます。

上段 被災前の片岸海岸と鵜住居川  
中段 被災直後の片岸海岸と鵜住居川  
下段 現場の監督を行う竹川主査（中央）





## ■ 大槌川・小槌川の復興状況



上閉伊郡大槌町の市街地は大槌川、小槌川という川の河口付近にあります。先の震災で高さ 15m を超える津波により壊滅的な被害を受けました。頻発する津波に対して市街地を守るよう、それぞれの川の河口に水門を計 2 基、高さ 14.5m 長さ約 420m の防潮堤を建設することとしています。

これまで用地の買収や、関係機関との協議により、なかなか工事に着手出来ませんでした。今年 4 月から本格的な工事に着手しています。この現場も平成 29 年度末までに津波防災効果が発揮させることを目標としているので、一日でも早く工事が終わるよう、急ピッチで工事が進められています。

上) 大槌川(左)と小槌川(右)の現在の様子。  
小槌川は水門がありましたが、それを上回る高さの津波が町を襲いました。  
下) 粉じんが舞う中、現場の立会を行う大槌主査(右)



## ■ 復興の足音 ～三陸鉄道が3年ぶりに全線開通～

東日本大震災で津波により大きな被害を受けた三陸鉄道ですが、平成 26 年 4 月 5 日に南リアス線(盛～釜石間、36.6km)が全線再開し、翌日 6 日には北リアス線(宮古～久慈間、71km)の不通区間も再開し、南北合わせて 107.6km の全ての区間で運行が再開しました。再開日には、始発駅及び終着駅で再開を祝うイベントが催され、記念式典には女優の藤原紀香さんらが参加されました。三陸鉄道の全線開通により、地元住民の生活の足として使用されることはもちろん、観光客の増加も見込まれ、地域の復興へ大きな足掛かりとなるのが期待されています。



左上) 三陸鉄道のイメージキャラクター「さんてつくん」と共に家族で開通を祝う大石主査  
中上) 開通記念式典に参加していた藤原紀香さんを激写(右はクウェート大使夫人)  
右上) 三陸海岸の鉄道開通状況  
左下) 釜石駅発の記念列車をお見送り

### <豆知識>

クウェート国は東日本大震災で大きな被害を受けた日本を支援しようと、震災後 500 万バレルもの原油を提供していただきました。これを売却して得られた資金のうち、およそ 12 億円を三陸鉄道の支援に回し、新たな車両の購入費等に当てています。(1 バレルは約 159 リットル)  
この復興支援に感謝し、在日クウェート大使及び夫人が記念式典に招かれています。

## ■ 復興の足音 ～『唐丹小・被災ピアノ復興プロジェクト』発動中！～

釜石市の唐丹小学校は、先の震災で校舎の三階まで浸水を受けるなど、校舎全体で大きな被害を受けました。現在唐丹小学校は取り壊され、今後約 1km 離れた唐丹中学校の敷地内に小、中学校一体の施設を建設することになっています。

小学校には、震災により音が出なくなったピアノがありました。『唐丹小・被災ピアノ救出プロジェクト』と名付け、音が出るように回復させるという活動が行われています。今回は復旧したピアノを使って、唐丹小学校付近にある唐丹駅や、小白浜海岸防潮堤建設現場等、様々な場所で返還公演が行われました。

今後は沿岸の他の小中学校のピアノを回復させるとともに、寄贈先・恒久的設置場所や運営体制等について検討を重ねていくそうです。(学校再建後に返還される予定のようです)



上 ) 被災直後の唐丹小学校(右)と体育館(左)の様子  
 右下) 小白浜海岸防潮堤での演奏風景  
 工事現場内なので、ヘルメット着用厳守です  
 左下) 被災ピアノと、プロジェクト参加の皆様でパチリ♪



## ■ 岩手県のゆるキャラ わんこきょうだい

©わんこきょうだい



メインキャラクター  
 そばっち

ご当地ゆるキャラと言えば、昨年度のランキングで「出世大家康くん」が2位にランクインしたことが記憶に新しいですが、岩手県にもご当地ゆるキャラがいます。その名も『わんこきょうだい』。岩手の名物であるわんこそばと漆器をかけ合せたキャラクターです。左のイラストはわんこきょうだいのメインキャラクターである「そばっち」で、名前の通りわんこそばをモチーフにしています。

この他にも「こくっち」、「とふっち」、「おもっち」、「うにっち」という仲間がいます。岩手県を4つのエリアに分け、それぞれのエリアを代表する食材を盛り付けたキャラクターです。どのキャラがどこの地域の食材をモチーフにしているか、一度調べてみてはいかがでしょうか？

©わんこきょうだい



左から「こくっち」、「とふっち」、「そばっち」、「おもっち」、「うにっち」

平成 26 年度 岩手県派遣メンバー

岩手県 沿岸広域振興局 土木部

河川港湾課 復興第1グループ 八木秀幸

復興まちづくり課 復興第3グループ

大橋則和、竹川清彦、諸橋良、大石昌仙、河守良剛